

<報告1>

自ら取り組む学習をめざして  
—休校・休業期間を活かした学習方法—

所 属 三木市立緑が丘中学校

I はじめに

本校は、生徒数が356名、閑静な住宅街に立地している。近隣には大学や特別支援学校等の教育機関や大規模な運動競技場、防災施設などがあり、子どもの成長に適した恵まれた環境にある。地域住民は親切で学校に協力的である。

本年度は、新型コロナウイルス禍の中、「自ら考え行動できる生徒」の育成に重点を置き、教育活動を行っている。

生徒たちは、生徒会を中心に「学校行事の企画・運営」、「風紀規定の見直し」など、生徒が主体的に考え学校を進化させていくことに取り組んでいる。

さらに、学習面で「自ら計画を立て、目標をもって家庭学習に取り組む力」をつけるため、長期休業中の課題選択制や休校期間中のオンラインによる学習支援などを行った。

II 取組

1 自分に必要な学習を計画的に行う家庭学習の習慣化

(1) 経緯と目的

夏休みの課題内容について、「もっと自分のやりたい学習をしたい」「課題内容が難しい」「課題が多くてこなしているだけになっている」などの意見が出ていた。生徒一人一人にあった課題設定や将来を見据えて計画的に行う自主学習の力をつけるため、まずは、夏休みの課題について内容を検討する取組を行った。

(2) 実践例

ア 課題内容の見直し

全ての教科担当が課題を見直し、例年との比較から課題の精選を行った。

まず始めに「課題の減少」を行い、1つの課題に対してじっくりと丁寧に取り組み、学びたい学習を行う時間の確保ができるようにした。

また、教科横断的に課題を「興味関心に応じて自主的に取り組む課題」と「自分の必要に応じて自主的に取り組む課題」に分けた。

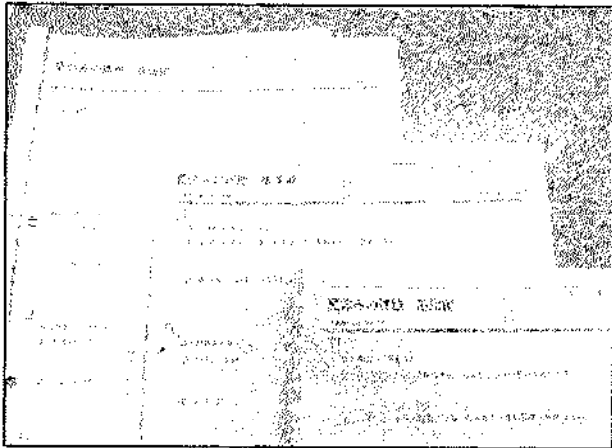
2年生「チャレンジ in SUMMER」一覧表

1 必修課題 (全員が必ず取り組み、提出する課題)			
教科等	アタマ	課題内容	提出日時
国語	ナマワーク		試験当日
社会		みんなの新聞コンテスト(別紙参照)	8月2日
数学		習熟度別プリント(標準で設定) わかも難関(一歩)まで習熟度をめざし、自分のページも課題にして高く ワークが答えと教師は訂正を提出すること	試験当日
理科		自由研究(別紙参照)	8月2日
英語		サマワーク(答えあわせまでして提出)	試験当日
家庭		一日の家事を振り返る(別紙で説明)	8月2日
2 選択課題 (いくつかから選んで必ず取り組み、提出する課題)			
教科等	アタマ	課題内容	提出日時
国語		A 読書感想文	A→30%未満の生徒は10頁 30%以上提出する 生徒は提出する B→20%未満の生徒は5頁 20%以上提出する
美術		B 夏休みアート作り(別紙参照)	8月2日
3 自由課題 (興味関心に応じて自主的に取り組む課題)			
教科等	アタマ	課題内容	提出日時
国語		書き作品(2014は別紙参照)	8月2日
音楽		ものづくり活動参加	8月2日
その他		社会を明るくする活動(作文)	8月2日
4 研究課題 (自分の必要に応じて自主的に取り組む課題)			
教科等	アタマ	課題内容	提出日時
数学		自主学習 (2学期中間テスト時に提出)	提出予定
社会		課題プリント (1学期の復習 9月習熟テストに一部出題)	提出予定
理科		課題プリント (1学期の復習 9月習熟テストに一部出題)	提出予定

▲令和元年度夏休みの課題(2年生)

イ 習熟度別の課題設定

生徒一人一人の学びに合った課題の作成を行った。数学では「基礎編」「標準編」「応用編」と分け、それらの課題を確認して生徒が自分に合った課題を選択し提出するようにした。さらに、「難しい内容にチャレンジしたい」「繰り返し基礎から学びたい」という生徒の願いに応じて、複数の課題にも取り組めるように準備した。



▲習熟度別の課題（1年生数学）

## 2 休校中に「自学自習」を促す緑中オンライン教室

### (1) 経緯と目的

新型コロナウイルス禍における学校教育の中断は、前例のないことで、長期にわたる臨時休業中の学力保障として学校教育のオンライン化が求められた。

しかし、オンライン環境が十分に整っていない現状では、Web会議ツールなどを利用して双方向につながるオンライン授業は難しい。そのため本校では、ホームページを利用して生徒との「つながり」を保ちつつ、家庭学習を促進する取組を行った。

### (2) 実践例

#### ア 生徒と教員がつながる学習（3月）

5教科（国語・数学・社会・理科・英語）の教師が問題を出題し、2月までの復習ができるコンテンツを作成した。課題は、基礎・基本の内容でクイズ形式の課題とし、解答を次の日に提示する形とした。臨時休校が延長されると、それに伴い緑中オンライン教室も予習バージョンに変更した。教科も5教科から9教科に増やした。

例えば、体育科では屋内で過ごすことの多い生徒の運動不足を解消するコンテンツを、家庭科では生徒が電子レンジを使って簡単に作ることでできる料理レシピのコンテンツをアッ

プした。

また、今回の予習バージョンでは、夏休み経験を活かして、基本と応用の習熟度別課題を設ける教科もあった。

みんな集まれ！📺 緑中オンライン教室			
各教科の担当に所属してみよう。 所属は、担当員表！アドバイスも参考に学習してみよう！			
No. 1 1年生バージョン			
教科	担当	アドバイス	留意
国語	国語で「もしもし」を習った後、「もし、もし」のちの言葉は？	・国語の授業は1年生から	・国語、算数、理科、社会、英語の授業は、1年生から「もしもし」のちの言葉は？
数学	1年生の数学は、1年生から	・1年生の数学は、1年生から ・1年生の数学は、1年生から ・1年生の数学は、1年生から	・1年生の数学は、1年生から ・1年生の数学は、1年生から ・1年生の数学は、1年生から
社会	1年生の社会は、1年生から	・1年生の社会は、1年生から	・1年生の社会は、1年生から
理科	1年生の理科は、1年生から	・1年生の理科は、1年生から	・1年生の理科は、1年生から
英語	1年生の英語は、1年生から	・1年生の英語は、1年生から	・1年生の英語は、1年生から

### ▲第1回目の「緑中オンライン教室」（1年生）

#### イ 学習の習慣化をめざす取組（4月）

学習の習慣化をめざした取組を行った。まずは、緑中オンライン教室に毎日の時間割をつくり、学校生活と同じ時間帯で学習を進める方法をとった。1週間分の時間割を提供することで、計画的・継続的な学習を行うとともに、家庭でのリズムが乱れないように配慮した。学習方法は、新しく配布された教科書を使う予習バージョンとした。新1年生には、取組の方法をホームページにアップして説明を行い、全学年が同じ時間割で学習に臨めるようにした。

インターネット環境が十分でない生徒にも配慮するとともに、緑中オンライン教室の問題と解答を一冊の冊子にまとめて各家庭へ配布した。同じ形式に飽きてくる生徒も出てくると





▼新型コロナウイルスによる休校明けに  
行った全校生へのアンケート結果

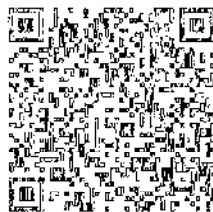
設問1「みんな集まれ！オンライン教室をやりましたか？」				
	1年生	2年生	3年生	全体
やった	82人 (39.5%)	98人 (73.7%)	62人 (59.5%)	242人 (73.4%)
やらなかった	12人 (11.5%)	35人 (28.3%)	44人 (41.5%)	91人 (26.6%)

設問3「みんな集まれ！オンライン教室でよかったところは？」 ※252人が回答 上位4位まで				
	1年生	2年生	3年生	全体
おもしろい問題があった	33人 (35.9%)	35人 (35.7%)	21人 (33.9%)	89人 (35.3%)
時間割があった	31人 (33.7%)	36人 (33.7%)	19人 (30.6%)	86人 (32.9%)
毎日問題が出された	26人 (27.2%)	35人 (35.7%)	15人 (24.2%)	76人 (29.8%)
動画などが見られた	27人 (29.3%)	19人 (39.4%)	17人 (27.4%)	63人 (25.0%)

※「設問3」は、「設問1」で「はい」と回答した252人が対象（複数回答の上位4項目について表記）。3年生の人数が少ないのは、学校の課題の他に塾のオンライン授業や課題に取り組む生徒も多くいたためと思われる。

▼緑が丘中学校「みんな集まれ！緑中オンライン教室」リンク集



IV 実践報告者からの質問

3か月間の休校中の各校の取組や、家庭学習に取り組む方法について、良いアイデアがありましたら教えてください。

## <報告2>

### 進路・学力保障のための実践

所 属 兵庫県立三木北高等学校

## I はじめに

本校は、今年で創立38年を迎え、生徒数469名、学級数12(各学年4クラス)の三木市志染町青山にある普通科の県立高等学校である。本校の教育課程は、大学、専門学校、公務員、就職など全ての進路に対応している。

本校卒業生(2019年度)の合格状況(合格延べ人数、過年度も含む)としては、国公立大学が3名、私立大学が98名と大学の合格実績は合計101名、私立短期大学が7名、文科省管轄外の大学校等が3名、専門学校が47名、公務員就職が6名、民間就職が11名である。私立大学では近畿圏の大学へ進学しており、主な進学先としては自宅から通うことができる近隣の大学に進学する傾向にある。

本校の生徒は、授業態度が良く、真面目な生徒が多いが、自ら積極的に学ぼうとする姿勢をもつ生徒は多くない。

今後はこれまで同様に、大学・短大・専門学校への進学希望者、公務員試験受験者、就職希望者を幅広くサポートするだけでなく、大学進学希望者についてはより高い目標に向かって取り組む意欲を醸成することが課題である。

以下に、これらの課題を改善すべく、今年度取り組んでいる独自の実践を報告する。

## II 取組

### 1 学校全体の取組

#### (1) スタディーサポート検討会

「スタディーサポート」とは、現在の学力の状態や学習習慣をチェックするテストである。その時点までの学習内容をきちんと理解しているかを把握し、日々の学習

習慣で注意すべき点や、苦手箇所を確認することを目的としている。受験時にはテストである「学カリサーチ(国・数・英)」とアンケートである「学習状況リサーチ」に取り組み、試験後には「個人診断レポート」が生徒一人一人に返却され、学力・学習習慣の診断結果と、弱点補強のための専用のワークとドリルが付属する。実施回数は1年(4・8月)、2年(3・8月)、3年(3月)の合計5回である。

「スタディーサポート」は、実施するだけでも生徒の学習効果を高めることが期待されるが、本校では、ベネッセの担当者とともに各学年で「スタディーサポート」の結果を見直し、生徒たちの学習能力と学習習慣の数値がどこに分布しているのか、また、各教科において、どのような内容を苦手としているのかを見極め、その後の授業改善や学習活動の取組に活かす、という「スタディーサポート検討会」を実施している。

取組例としては、多くの生徒が基本的な単語を身に付けることが不十分な場合には単語テストを実施する、読解力が弱い場合には、授業内で文章読解を多く取り入れる、などである。

このような取組は、すぐには成果として表れないものの、継続することで成果が表れるものである。今後の生徒たちの成績向上が期待される。

### 2 1学年の取組

#### (1) 小テスト

生徒が基本的知識を身につけるために、1学年では朝のSHRにて、漢字テストを週に1度実施している。

#### (2) 週末課題

1学年では週末課題を週に1度、もしくは隔週の頻度で課している。各教科の課題だけでなく、神戸新聞朝刊1面のコラム「正平調」の書き写しを課することもある。コラム「正平調」を書き写すことで言葉との出会いが広がり、文章力や表現力が豊かになるとともに、地域社会の動きやニュースへの理解が深まることも期待される。

#### (3) 英語素養テスト

1 学年では中間・期末などの定期考査の他に、中学英語の範囲からも出題される英語素養テストというテストを実施している。今年度は、8月26日に実施した。

このテストで50点以下だった場合には、週に1度、放課後に実施している「Go to English」という補充授業に参加させ、学力定着をはかっている。

### 3 2 学年の取組

#### (1) 小テスト

2 学年では朝の SHR にて、火曜日に英単語、水曜日に漢字、金曜日に英文法の小テストを実施している。

#### (2) 小論文指導

小論文は大学や短期大学、分野によっては専門学校の入試で出題されており、作文とは全く違う書き方が求められるので、事前の訓練が必要である。

そのような文章を書く訓練を、2 学年から「総合的な学習の時間」に取り組んでおり、翌年の受験期に必要な小論文や自己 PR 文、志望理由書に向けた事前準備をはかっている。

#### (3) 大学教授による出張講座

志望者の多い看護・医療、幼保・初等教育希望生徒を対象に、「大学ではどのような勉強をするのか」、「どのような職業があるのか」、「どのような実習があるのか」などを、実際に大学教授に講義していただく、出張講座を本校では実施している。

今年度は2回、第1回は10月21日(水)放課後に、第2回は11月18日(水)5限目に実施した。



### 4 3 学年の取組

#### (1) 「総合的な学習の時間」進路別学習

本校では、大学や短期大学への進学希望者だけでなく、専門学校への進学希望者や公務員試験受験者、就職希望者など、生徒の希望する進路が多様なものとなっている。そのような中で本校では、それぞれの進路先の必要に応じて、講座を選択できる進路別学習を3学年の「総合的な学習の時間」に取り入れている。以下は、開講講座名と内容である。

ア 「言葉の力・実践的探究」

(共通テスト現代文読解)

イ 「実用英語探訪」

(英検2級・準2級・GTEC対応)

ウ 「あつまれ英語の森」

(共通テスト英語筆記)

エ 「音の解剖」

(英語リスニング)

オ 「Show&Tell」

(英語会話)

カ 「ズームイン日本史」

(大学入学共通テスト・国公立2次・私大対応…図版・史料読み取り問題)

キ 「現代用語の基礎知識」

(作文・小論文対策)

ク 「数式を振り返ろう」

(数I・Aの総復習)

ケ 「公式の深み」

(数学IIの復習)

コ 「社会人基礎力」

(就職試験対策)

#### (2) 就職希望者へのサポート

就職希望者には主に進路指導部が、様々な支援の取組を行っている。以下に、取組をあげる。

ア 就職希望者説明会

イ 作文練習

ウ 就職模試

エ 応募前企業見学(希望者のみ)

オ 就職希望者集中補習Ⅰ

(筆記試験対策・作文練習・面接練習)

カ 企業見学及びインターンシップ

キ 就職希望者集中補習Ⅱ

(履歴書指導・面接練習)

ク 最終面接指導

## 5 コロナ禍での取組

### (1) Classiでの課題配信

今年度は新型コロナウイルスの影響により、4月当初より休校となり、6月から分散登校を経て通常の学校再開となった。学校再開までの休校期間には対面での授業が行えない関係で、導入して間もないClassiを活用し、各学年・各教科で課題を配信して、生徒たちに課題学習を課した。

### (2) 授業動画の配信

休校期間にも授業を少しでも進めるために、数名の教師が授業動画を配信した。方法としては撮影した動画をYouTubeに投稿、そのURLをClassi等で生徒に連絡し、家庭学習をさせるというものである。

## III おわりに（成果と今後の課題）

これまで、本校における進路・学力保障の実践を紹介してきた。本校の課題としては、多様な進路への幅広い対応と、本人が希望する進路にとってより高いレベルの大学進学をサポートすることであり、それらの課題を乗り越えるべく、様々な取組がなされてきた。

これらの取組の成果は、すぐに表れるものではないが、生徒に自分の学力の現在地を知らせ、不足している知識・技能をしっかりと定着させることで、授業での「わかる」が増え、より積極的に自ら学ぶ姿勢を身につける良ききっかけとなるのではないだろうか。

また、「スタディーサポート検討会」のように、教師側も生徒の学力を判断し、その後の授業実践に活かすことができるという形成的評価の観点からも意味のある取組だと考える。

今後はこれらの取組を続けるだけでなく、他校の取組などを参考にし、本校の生徒たちが希望する進路の実現を目指していきたい。

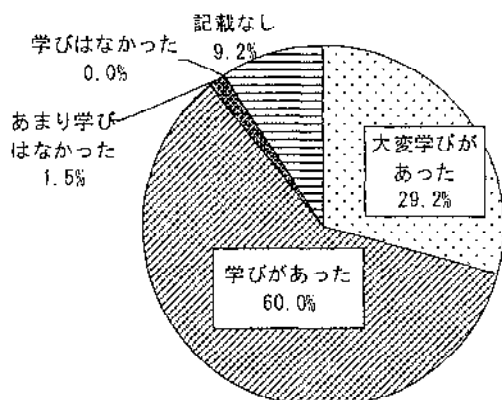
## IV 実践報告者からの質問

今年度はコロナ禍での教育活動となり、活動に様々な制約があったと思われます。その中で、例年通りの進路保障を実現するために、各校ではどのような取組をされていましたか？





## イ 学びの深度



## ウ 感想

- ・ 緑中の夏休み課題内容の見直し（量を減らして選択できる自由課題を設ける）や、北高のスタディーサポートの創設など、生徒のことを親身になって考えられている点が、非常に素晴らしいと感じました。
- ・ 休校中の学びの保障に向けて、学力の差に配慮して、習熟度別に課題を出すなど工夫されていたことや、やりっぱなしではなくその取組の評価を生徒にってもらうなどが素晴らしかったです。
- ・ 学びに向かう力を育成するための取組実施例があり、自校の教育活動への参考になることがありました。自分の現在の学習到達度を知り、個にあった課題提示をすることで、意欲が高まり、学びに向かう力が育成できると改めて認識できました。
- ・ 2つのレポートから三同教としてめざすべき「進路」「学力」の保障とは何かを改めて考えさせられました。「より高いレベルの大学進学」をサポートすることや夏休みの課題の量など、本来生徒が自らの将来を切り開いていくための支援という視点が見えにくい。さらには「保障」するべき生徒への関わりの具体的取組例が欲しい。
- ・ コロナの状況下において、密を避ける方法として、オンラインは手法として正しいと思います。但し、監視のない状況でのオンライン授業はどの程度集中して学習できているのか不明です。私の家でも画面ではオ

ンライン授業を表示しているが、手元ではユーチューブで別の動画を見ていて真面目にいませんでした。ZOOM等の双方向通信で互いに見える手段が必要ではないかと思います。

- ・ 自分が学びたい、学ぼうとする意欲を育てることが学力向上につながるように感じます。学力向上のため、どのように学力を保障していくことができるかが大切だと感じました。
- ・ 長期休業中の課題の精選は、小学校でも必要なことであり、子どものやる気や自主性を引き出すために有効なことが分かりました。また、インターネットをとおして、コロナ禍の中でも子どもたちの学力保障や生活の見直しなど、さまざまな支援を行うことの大切さに大変共感することができました。
- ・ 課題を全生徒統一ではなく、「興味関心に応じて自主的に取り組む課題」と「自分の必要に応じて自主的に取り組む課題」に分けたり、習熟度別の設定にする考え方はなかったもので、大変参考になりました。ICTを活用した各家庭の具体的な指示も参考になりました。
- ・ 自分に必要な学習を計画的に行う家庭学習の習慣化のために、夏休みの課題を見直し、3段階のレベルを準備していたことが参考になりました。オンライン学習も積極的に取り入れられており、子どもたちの学力保障に対する意識の高さが伺えました。
- ・ 課題があれば随時見直し、生徒の学力保障をされているところを大いに参考にしたいと思います。生徒のアンケートから取組に90%がよかったと感じていることは大変評価したいです。ネット授業は未知のことですが果敢に挑戦されていることに教育の熱を感じました。
- ・ 各校それぞれに生徒の学力保障に向けて細やかな指導をされていた。中・高だけでなく、小学校も含めて、小・中・高とつながった学力保障が大事だと思いました。
- ・ 夏休みの課題内容の見直しは、とても参考になりました。課題を終わらせることが主になって、内容が身につけていない生徒が

多いです。課題を選択性や習熟度別にする  
ことで、個々の能力や必要に応じた学習を  
進めることができるので参考にしたいと思  
います。

- ・学校全体の取組として「スタディーサポ  
ート」検討会の結果を生徒へフィードバック  
する取組や、学年ごとの課題に対し、きめ  
細かい指導をしっかりとされていると感じ  
ました。こうした継続的な取組が、進路や  
学力保障の上で成果となって表れてくる  
と思います。
- ・どの子も社会に出て生きていけるよう  
にするためには、自分で考えて行動できる  
ように支援していく必要があると思いま  
す。学習のしかたを自分で計画を立てて  
実行していけるよう、さまざまな取組が  
実践され、今後参考にしたいと感じま  
した。

## エ 実践報告者からの質問に対する回答

### (ア) 報告1の質問に対する回答

- ・オンラインの環境がどの家庭にもある  
のか疑問に思いました。
- ・コロナ禍が過ぎ去ったとしても、オン  
ライン教室の取組はぜひ継続されるべき  
と思います。
- ・オンライン(classi)による課題や動画  
の配信を行っていますが、これまでに経験  
が無かったのでノウハウがなく、中途半  
端な対応になっていました。オンライン  
授業などの充実が今後の課題です。通  
信制高校などの取組例などを参考に、  
対策をしていかなければならないが、  
時間と予算の問題もあり、進んでい  
ないのが現状です。
- ・すべての教科の課題と時間割カード  
を作成し、1時間ごとに目当てを振り  
返りカードを作成して取り組ませまし  
た。
- ・オンラインであれば、Microsoft  
Teamsによる画面ファイル共有による  
回答確認。
- ・自学ノートに、自分の興味あること  
を調べさせたり、教科の苦手なところ  
を学習させました。
- ・隔週での課題のポスティングと回収  
をとおして、学力の保障と生活習慣の  
見直しを行いました。また、インター  
ネットを通じて課題の解説や授業を  
行う学年もありました。
- ・教師による授業動画を各教科週2  
回のペースで配信を行いました。定  
期的に電話連絡を行い、生徒の状  
況把握を行うとともに、悩みの相  
談や学習への意欲づけを行いました。
- ・オンライン教室などHPにアップする  
際、担任の先生や学年の先生の顔が  
映ったものや動画での照会など、文  
字以外の表現もあれば子どもたち  
も積極的に見るかと思えます。
- ・本校でも休校中は各担当で学習動  
画づくりを行いました。小学生相手  
に<sup>対</sup>面しての話合い活動なしに学  
習を進める方法に多少の抵抗はあり  
ましたが、慣れていくことで、今  
後の授業でも有効に活用できる  
のではという可能性が見えました。
- ・一週間ごとの課題提出により、子  
どもたちの生活や学習の様子が確  
認できました。(休校中の取組)
- ・緑が丘中学校と同様に、学習計  
画と課題をポスティングしました。  
現任校は小学校であるので、低学  
年と高学年で学習計画の内容に幅を  
持たせたり、一週間ごとの計画に  
して内容を少しずつ増やすなど無  
理のないように取り組める工夫を  
しました。
- ・スタディサプリを活用したメール  
相談や教科担当からの共通課題及  
び自由課題の配信、自宅での模擬  
試験の実施。
- ・本校も休校期間中には、自作の  
教材を提供するようにしました。子  
どもの興味をひく内容を考案する  
よう努めました。
- ・本校では毎年第2学年全員を対  
象とするインターンシップという  
職業体験を行っていますが、今年  
度もコロナ感染対策を万全にしな  
がら実施しました。第3学年の  
進路説明会はzoomを使用した  
オンライン形式で行いました。

#### (イ) 報告2の質問に対する回答

- ・新学習システムやみっきいステップを活用し、習熟度別の授業を実施しました。
- ・近隣の高校の先生に説明しに来ていただきました。
- ・学習プリントを各家庭に配布しました。
- ・双方向のやり取りを頻繁に行い、生徒の不安を払拭できるように心がけました。
- ・classi を用いて学習状況など生徒個人と交流を深く行っています。
- ・限界はありますが、さらに細かい個別の進路等に関する面談を繰り返し行ったり、毎日の補習をすべきかと思えます。
- ・基礎学力定着のための学習。今までの苦手分野の学び直しや新しい分野に必要な中学までの内容の復習など。
- ・放課後「がんばりタイム」というものを実施して、希望者に日々の学習の復習を中心に学力保障を行う場を作っています。
- ・教師による授業動画を各教科週2回のペースで配信を行いました。定期的に電話連絡を行い、生徒の状況把握を行うとともに、悩みの相談や学習への意欲づけを行いました。
- ・単元の精選や組み換えを行って全ての教育課程が修了するよう工夫しました。
- ・学校関係者ではないため、回答ではないのですが、生徒一人一人に寄り添った対応が望ましいのではないかと考えています。(行きたくない進路や就職先でも、条件で選ばせるとかの無いように)
- ・家庭学習にしっかり取り組ませるためには、生徒だけでなく各家庭の保護者の協力が不可欠であると思えます。保護者とのメールでのやりとりも有益ではないかと思えます。
- ・小学校では、ホップステップジャンプと題してレベルを3段階に分けて課題を出しました。(6年生ならホップは4年生の内容、ステップは5年生の内容、ジャンプは6年生の内容としました) 学校と同じように時間割を作成させて学習に取り組ませました。

#### オ 指導助言

緑が丘中学校では、「自ら計画を立て、目標をもって家庭学習に取り組む力」をつけさせるために夏休みの課題設定の見直しを図り、自由課題として「自分が興味関心をもって取り組む」を選択させたり、補充課題として「自分の必要に応じて自主的に取り組む課題」を設定したりすることで、自分の得意な分野や自分が課題としている分野を考えさせ、基礎学力の定着化を図りながら、自分をよりよく伸ばそうとする自尊感情の育成につながる取組を実践されている。また、臨時休校中にホームページを活用して時間割を配信して学習習慣の定着化をめざす取組(みんな集まれ! 緑中オンライン教室)も実践されている。アンケート結果からオンライン教室に取り組んでいる生徒が7割に達していることから、毎日、学習内容を配信することで生徒が配信内容を楽しみ、学ぶことへの意欲が高まっていることがうかがえる。また、生徒の意欲を持続させるために学習のめあてを設定することで、「何を学ぶのか」という意識が高まり、学習に臨むことから学びに向かう力を育成する取組にもつながっている。

三木北高等学校では、スタディーサポート検討会を実施して客観的な資料をもとに学習習慣で注意すべき点や学力の定着度を認識することができる実践をされている。未定着の学習内容については弱点補強のための専用のワークやドリルを配付して基礎学力の定着化につなげている。また、キャリア形成を行うため大学教授を招聘して就業に向けて必要な学習内容を知らせる講義を受講させることで人や社会と自分との関わりを認識させる取組を实践され、最終学年では就業にあたり必要な学習内容を自ら考え、選択させることでキャリア形成を育むようにされている。就業に向けて目標ができることで必要な学習内容を自ら考える。そのことで、学習への意欲が高まり、基礎学力の定着につながると思われる。

両校の取組は将来への進路選択に向けて目

標をもたせ、計画的に学習活動を行っていくことの大切さを実感させる取組である。

第4分科会の感想からも学習の定着度を確認して自ら学習の仕方を考え、計画を立てて実行することで学びに向かう意欲や態度を育成することができ、基礎学力の定着化を図ることができるので参考にしたいという意見が寄せられている。学びに向かっていく意欲や態度を育成する過程で自己の特徴を理解していき、自尊感情の育成にもつながる取組だと考える。

進路・学力保障分科会のテーマは、「差別を見抜き克服する力と自己の進路を切り開く意欲を高めるための取組をすすめよう」である。そこで、テーマにそった取組を進めるにあたり、下記の観点に基づいた指導が必要であると考える。

- ・差別を見抜くための人権感覚の高揚の取組（自尊感情の育成など）
- ・差別を見抜くための基礎学力の定着
- ・キャリア形成を育み、社会の変化に対応できる「学びに向かう力」の育成

本校でも臨時休校中に学習習慣の定着化に向け、学習時間割を子どもたちに提示して学習に取り組ませた。その際、学習目標（めあて）を設定して、学習後に「何を学び取ったのか」などの振り返りをさせる取組を行った。学校再開後の生活リズムに早く慣れさせるためでもあるが、学習計画を立てて学ぶ目的を意識させることで「学びに向かう力」を育成する取組と考え、学校再開後も継続して行っている。理科の学習で「植物の一生」を学習したとき、植物の成長過程を知ったことで、大切な命を預かっている意識が芽生え、植物を育てるときにはこの学習を活かして育てていきたいと振り返りをした子どもがいた。振り返りをすることで自己の学びを客観的にみることができると実感した。

将来、差別事象や困難な局面に出遭ったときに、自分の進路に向かい、自己実現できる力を付けさせていくためには、学習目標（めあて）に対する振り返り活動が重要になって

くるのではない。学習目標（めあて）に対して「何を学び取ったのか」「どのように学んだことを実生活に生かすことができるのか」「学び方はどうであったか」など、学習内容の定着度、学習態度や学習方法が適切であったのかを自己で振り返ることで客観的に自分の成長を感じられ、差別や困難なことに直面しても乗り越えることのできる方法、意欲や態度を身に付けることができる。そして、自己決定ができ、進路を切り開く子どもが育っていくのではないかと考える。

